

2011年7月14日

宮本博司

立場にこだわらずに、現状をまともに見てほしい

1. 長良川河口堰との係わり

- ・1988 から 1990 年 河川局開発課課長補佐
- ・1995 年 中部地方建設局河川調査官 長良川河口堰担当
- ・1996 年 水資源開発公団長良川河口堰建設所所長
- ・1997 から 1999 年 河川局開発課専門官、調整官

2. 当時を振り返って

・河川局は、組織をあげて何としても長良川河口堰を完成させ、運用を行うという方針で対応。一方、河口堰建設に反対の方々は、何が何でも反対ということであり、まさに「戦争状態」でした。話し合い、住民説明会、円卓会議等が行われ、私は河口堰推進の立場で様々な説明を行っていましたが、もう既に冷静にかみ合った議論ができる状態ではなかったと感じていました。

・この状態のまま、河口堰は完成し、最後は野坂建設大臣の判断により本格運用に移行していきました。

3. 今後に向けて

・当時、建設推進、反対の立場から河口堰の治水、利水からの必要性や環境に与える影響についての見解が述べられましたが、当然河口堰が運用されていない時点での見解であり、その中には推測や予測によるものも多く含まれていました。

・本格運用から十数年が経ち、当時の推測や予測に基づいた見解が実際にはどうであったのかを検証することができる現時点で、今後の河口堰のあり方について調査、検討することは有意義なことであり、徹底的に実施するべきであると考えます。

・ただ、その際、建設当時のように推進、反対の立場に拘ってはいは、かみ合った議論はできません。過去の考え方や立場、そして現在の立場を一度すべてリセットして、長良川と周辺地域の現状をまともに見て、何が問題であるのかを実感することから始めていただきたい。そして、前もって結論を決めつけずに、あくまでも現状から実感した課題を、子どもや孫のためにどう改善すればよいのかという視点で対応していただきますよう、河口堰建設にかかわった一人として切にお願い申し上げます。